

投信フォーラム2010 in 大分

～資産運用は時間を味方につけましょう～

主催/投資信託協会、全国地方新聞社連合会、大分合同新聞社 後援/金融庁、金融広報中央委員会、大分財務事務所、大阪証券取引所、信託協会、全国銀行協会、東京証券取引所グループ、日本証券業協会、日本損害保険協会、不動産証券化協会

世界的な金融市場の混乱と経済不況が続き、超低金利時代の行く末が見えない現状では、「貯蓄から投資」へという流れは当然の成り行き。そういう中で課題は、どうやって資産を守り運用していくか。

2月13日、大分市の大分県農業会館で「投信フォーラム2010 in 大分」～資産運用は時間を味方につけましょう～が開かれた。約370人が聴講。三遊亭歌奴さんの「噺家のくらし」と題した講演に続いて、月刊誌「投資信託事情」編集長の島田知保さんが、「あんしん」投資信託活用法」と題してセミナー。歌奴さんは落語「片棒」も披露した。

「あんしん」投資信託活用法

「幸せになるための道具として」

きょうは、いかにしてもうけるかではなく、いかにして安心してお金の運用とつきあえるかを勉強していただきたいと思っています。不安材料がいっぱいの現在、「お金の運用」は解決しないけれど、お金の運用は心強い。だからお金を運用しなければ、という声が聞かれます。しかしリスクのないうりターン(収益はありますが、お金の増やそうとすれば、今より減るかもしれないというリスクがあります。でも賭けてみるというよう不安から



島田 知保 しまだ ちほ アナリスト
イボットソン・アソシエイツ・ジャパン(株)月刊「投資信託事情」発行人・編集長。国際基督教大学卒。食品会社、国立研究機関、衆議院議員秘書を経て1995年より月刊誌「投資信託」編集長。同誌は創刊51年目を迎える投資信託の専門誌。プロ向け、一般向けを問わず、一貫して長期・積み立て・分散投資をテーマに活動。幸せ作りの道具として、お金の金融商品と「あんしん」して付き合うことを提案している。

作ること」です。資産運用をしていくうちに、お金の縛られて不自由になっていくのはいけません。自由になるための道具であるお金を増やす方法として資産運用を使っていたらいいのです。あくまで目的は、より自由になる、より快適になる、より幸せになることです。そのための道具として投資信託は便利で使いやすい仕組みだと思っています。

1万円程度から分散投資

投資信託は、いろんな銘柄や株、債券などが詰め合わされている箱のようなものです。

島田知保さん(アナリスト)

ができます。分散投資は、リスクを抑えるために一番のうけは我慢するが、よりも取らないという、もうけるための手段というより、不安を減らして安心して運用ができるための工夫です。

時間を味方につけて「ゆったり」

投資信託と上手につき合うコツは①投資の目的をはっきりさせる②投資期間をゆとり取り③理解できない投資をする(分らないものに投資をしない)④情報をよく吟味する⑤シンプルな発想から始める⑥タイミングを重視するのではなく、少し買つて、また少し買いつつというように、タイミングを分けることを考える。⑦売り買いでもうけるのではなく、資産を保有して必要ときに投資をする⑧長くつきあえるファンドを中核に据え、繰り返し買いたくなるファンドを選ぶなどです。初心者の最も大事なことは、一度に売買しないことです。それは、味方にしなければいけない時間を敵にまわして、タイミングを取ることにつながります。また何のために投資するかを考えて運用することも大事です。お金の運用はリスクコントロールとセルフトロルの積み重ねです。ゆとり構えて無理をしないことを時々思い出してください。迷った時や初めての場合は、コストが比較的安めで、値動きがわかりやすいインデックス運用のファンドを試してみることがおすすめです。それから自分の好きなものをお勧めします。それから自分の好きなものをお勧めします。それから自分の好きなものをお勧めします。

世界を広げましょう

資産運用をしていくと、世界を見る目が変わっていきます。ぜひちよつともいいのでやってみていただきたいです。あくまでも資産運用の主役はあなたです。ゆとり構えて将来に備える、一生かかってもお金の付き合っていく考えで、自分で管理して、よいスタイルを保つていただきたいです。そして世界を広げ、楽しんでください。

運用を始めるのはおかしいと思います。そうではなく、気持ちをやつたり持つて、時間を味方につけて運用を考えていただきたいのです。そのための大切なことは、「無理をしないこと」「積極的に考えること」「日々の暮らしに楽しみを見いだすこと」「人や自分の失敗から学んで、これからどうするかをしっかりと考えること」「人の話や経験に耳を傾けてそこから学ぶこと」「そこから自分ができること自分らしさを取り入れて、自分のスタイルを

株式と違って投資信託は、一日の終わりに1回だけ値段が付きまます(基準価額)。1万円程度から投資ができ、ファンドマネジャーと呼ばれるプロが、箱の中の、この銘柄を売ってこの銘柄を買おうと運用してくれまます。自分の資産を運用するためにコストを払ってプロを雇っているわけでは、箱の中のいろんな商品の中から自分が欲しいものを選んで運用してもらいながら分散投資が出来ます。投資対象地域、国、通貨、銘柄などを手軽に分散投資

ら、後輩に「ちよつと」してあげる。先輩方はいちよつともらつた噺を、後世に伝える。これが恩返しになるのです。

自分のスタンスで お金のことを決める

いろんな所に掛かっている落語家をやる、いわゆる「営業」がわれわれの収入源です。何しろ仕入れ値がそんなに安くないから、「ギャラはいくら」というのは自分から言いくらい。でも、2人の大先輩が、お金に対する納得できる考え方を残しています。



落語も披露 吉岡 隆
それと反対のことを言つたのが、亡くなった林家彦六師匠。「落語家はお金をいただきますが、あんなに、芸でもらうお金は限度がある」と、ギャラがたかさん出るお座敷に呼ばれても、もらった封筒を開けて、自分がいつも取っている金額だけ返してしまつたそう。芸を金で売らしたくない」という言い方をしていました。2人とも、自分のスタンスを大事にしてお金のことを決めています。芸人にとって、考えさせられる話です。



前たちが取れないだろう」と言われました。なるほど、「圓歌師匠がこれだけ来てくれたので、あなたはこれだけで来てください」と言われれば、「そうですか」と向こうの言ひなりです。でも、師匠が高くとつてくれると、われわれと師匠の間の距離は、はるかに広がりますから、「圓歌師匠はこれだけで来てくれた」という比較の話が一切出ません。

「後輩を育てて恩返し」
われわれは、師匠や先輩から、差し向かいで噺を教わってもらいます。忙しい師匠や先輩方にけいこをつけてもらうのですが、お金は



三遊亭 歌奴
さんゆうてい うたやっこ 落語家
大分市出身。大分大学教育福祉科学部附属中学校、大分商業高校卒業。1995年3月3日、三代目三遊亭圓歌に入門、「歌きち」と命名。99年5月1日より三遊亭歌奴で二つ目、2008年9月21日、真打ち昇進。02年第12回北とびあ若手落語家競演会大賞受賞、07年水天宮ロイヤルパークホテル主催落語一番勝負古典部門優勝、08年第7回さがみはら若手落語家選手権優勝。

まず、落語界一高いギャラを取っている、うちの師匠の圓歌。師匠に「噺家がそんなにお金を取つていいのですか」と聞くと、「バカ。おれが取らないと、お

資産運用は、時間を味方につけましょう。

社団法人 投資信託協会

リスクを小さくするための方法、知っていますか？
「資産の分散」「長期の保有」そして「時間の分散」です。

値動きのある投資信託は、時間を味方につけて、少しずつ分けて購入することでリスクを分散。資産運用、考えてみませんか。

詳しくは投資信託協会のホームページ、ガイドブックをご覧ください。



投資信託を知りたい方に

無料 ガイドブックプレゼント (各1冊セット)

ご希望の方は、ハガキに郵便番号、住所、氏名をご記入の上、下記までご請求ください。また協会ホームページからもご請求いただけます。(お届けは2週間前後となります。)

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町2-1 東京証券取引所ビル6階 (社)投資信託協会0係

※いただいた個人情報は、本ガイドの送付および当協会が開催する講演会やセミナーのご案内に使用することがあります。



携帯電話はこちら

ホームページが見やすくなりました

投資信託協会

検索

www.toushin.or.jp

メールマガジン無料配信中
ホームページからお申し込みください。